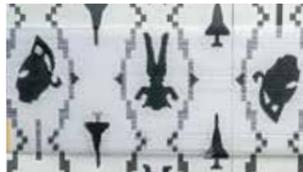


ウルトラセブンかすり着物ができるまで

～ひと糸、ひと織、丹念な手仕事の美～



1 種糸とり
図案通りに緯(よこ)糸の部分を白糸に墨付けをする。これが糸を括る又はナ染目印の種糸となる。



2 拵(くり)
経(たて)糸のくりをおこなう。



3 染色
拵(くり)地になる部分を染色する。染料には、琉球藍・福木等の植物染料や化学染料がある。(セブンかすりは化学染料)。



4 のりづけ
作業中の拵様模のズレを防ぐため、経(たて)糸をのりづけする。



5 捺染(すり込)
緯(よこ)糸は、種糸に従って、ナ染(すり込)をおこなう。



6 柄合わせ
湖付け張り伸ばしをおこない、糸をしっかりと整える。



7 巻取り
経(たて)糸の地糸と拵糸を同時巻きしながら、ちぎり箱「プー」に巻いていく。



8 綜(そう)通し
織る時に経(たて)糸を上下させる道具を綜(そう)という。綜(そう)に、巻き終えた経糸を順序よく一本一本通していく。



9 製織
木製の手投げ杵(ひ)を用い拵柄を合わせながら織っていく。



10 洗濯
織り上がった反物は、水又はぬるま湯で洗い青空の下に干す。半乾きの状態で蒸気の出るローラーにかけ、しわを伸ばす。



11 ウルトラセブンかすり着物完成

脚本家 金城 哲夫
金城哲夫は、沖縄県南風原町出身の脚本家です。「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」など、円谷プロ初期の特撮番組のメインライターとして大きな役割を果たしました。
沖縄芝居の脚本、テレビ・ラジオの司会、沖縄国際海洋博覧会セシモニーの企画・演出などでも活躍しました。

図案を基に括りの作業を行いました。括りとは経(たて)糸に入れていく緯(よこ)糸の配置を計算して染色の際に色が入らない

デザイナー視点のデザインが拵の技法でどこまで表現可能なかが拵職人と打ち合わせを重ねながら、今回の企画を形にしました。
私も拵の歴史や技法について教えてもらい、気の遠くなるような細かい作業を職人の皆さんが行っている事にも驚きました。知れば知るほど先人の知恵はすごい、拵の歴史や思いを崩さないように配慮したいという思いを持ちながらデザインと掛け合わせました。

デザイナー視点のデザインが拵の技法でどこまで表現可能なかが拵職人と打ち合わせを重ねながら、今回の企画を形にしました。

ウルトラセブンかすり図案の作成者
城間 英樹さん
(株式会社DOKUTOOKU460代表
アートディレクター)
琉球ゴールデンキングスのゴキティや、F.C.琉球のシンペーニョ等も手掛けている。

今回の完成品をみた琉球拵事業組合の宮城理事長は「ホッとした」という気持ちが大変大きい。私たちも織りながらも色柄がどう出ているか一発勝負の部分があります。無事完成して、綺麗に着て花織りの帯もとても綺麗にできてよかった。コメントもいただきました。また、「今回の試みを通して、町内の皆さん、若い方々にも少しでも関心を寄せて頂き、拵を知っていただく機会になれば嬉しいです。」と話されました。

ウルトラセブンの赤色を表現することにまず苦労しました。単純に経糸の赤×緯糸の白で構成すると、ピンクになりかねません。地染めの工程で白やシルバー、グレイジューで染色することで表現したい色に近づけました。
作品の色素のデータは記録していますが、実際は職人によって出てくる色が異なります。空気に触れた時間などでも色が変化するからです。ですがそれもまた、拵の魅力のひとつであり、私たち職人は色々な経験を通して、新たな色に出会うことができます。

ウルトラセブンの赤色を表現することにまず苦労しました。単純に経糸の赤×緯糸の白で構成すると、ピンクになりかねません。地染めの工程で白やシルバー、グレイジューで染色することで表現したい色に近づけました。

よつにする為、糸を括っていく作業です。緯糸は捺染という技法で糸に染料を擦り込んでいきます。
織手によって経糸1cmに対して緯糸を打ち込む本数が24～26本と変わる為、そこまで考慮することがとても大変な作業です。ウルトラセブンかすりについては、従来の拵と異なりあそび部分柄がない部分が多く無い為、ズレがないようにすることも繊細な作業でした。

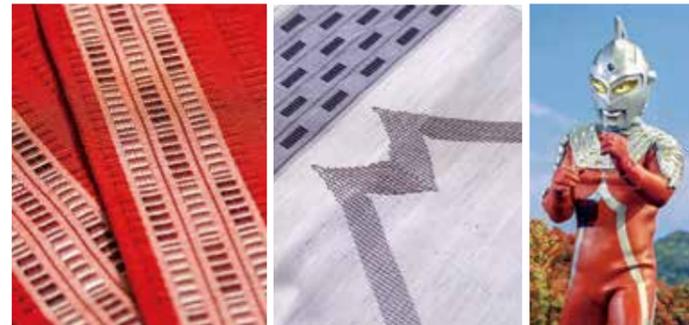
ウルトラセブンかすり誕生!

Haebaru Kasuri Ultraseven

～ウルトラマンの脚本家 金城哲夫のふるさと南風原町～



ウルトラセブンをイメージした琉球かすり織柄



ウルトラセブンのボディーパーツをイメージした南風原花織

「ウルトラマン」シリーズの脚本を手掛けた金城哲夫さん(1938～76年)の出身地がここ南風原町であることは皆さんご存じでしょうか?
金城哲夫さんも脚本を執筆したウルトラセブンが昨年10月に放送開始55周年を迎えた記念の企画として、金城さんの出身である南風原町の伝統工芸品「琉球拵」とのコラボが実現し、「ウルトラセブンかすり」として発表されました。
11月13日には、今回開発を行った町観光協会と、それに携わった円谷プロダクション、琉球拵事業協同組合、南風原町などが揃い、町役場にて会見および試作品を発表しました。

町観光協会の高橋庸正会長は、3年ほど前から「ヒーローのまちづくり」として色々な商品を検討して色々な商品を作るのであれば、南風原町のために作るものを作ろうと、拵とウルトラマンを掛け合わせた新しい特産品の実現を目指しました。琉球拵事業協同組合や町役場の関係者も交えて話し合いを進め、デザインは県内のアートディレクター城間英樹さんに依頼しました。「大人がシックに着こなせるデザインになったと思う。ウルトラマンを見て育ってきた世代や、世界中のファンの皆様を対象に今後の商品化を目指しています」と話しました。

円谷プロダクションの麻生智義さんは「ウルトラセブンは異星人と戦う上で、互いに分かり合おうと努力するヒーローです。(これまでにない拵との)今回のコラボはウルトラセブンのメッセージ性と共通するものがあると感じます。」と話されました。

試作品の発表の際には、金城哲夫さんの孫である新垣加奈さんと夫の周平さんが着物物を羽織り披露しました。加奈さんは「今回はすごく光栄なお話をいただきました。おじいちゃんがつくれたウルトラセブンと地元伝統工芸でできた今回の貴重な拵を着ることができて嬉しいです」とコメントされました。

5種類の図柄が拵の技法で表現されています。帯は南風原花織で仕立てられており、ここにもウルトラセブンのボディーパーツの模様が表現されています。

